

令和7年度 保土ヶ谷地区 幼保小教育交流事業活動報告

令和7年度 幼保小教育交流事業報告 Aブロック

桜台小学校、立正幼稚園
ゆめの樹保育園、明神台保育園

保土ヶ谷小学校、保土ヶ谷幼稚園、
セントメリー幼稚園、三恵幼稚園、神戸保育園、
ベネッセ保土ヶ谷保育園、合歓の木保育園

活動報告

【桜台小学校】

- ・今年度は1, 2, 3年生が園児と交流できるように計画を立てた。
- ・学校探検や学校クイズ、保土ヶ谷公園でどんぐりを一緒に拾い、拾ったどんぐりで遊ぶなどの交流をした。天候不良や感染症などで直接の交流が難しい場合は、手紙での交流をした。
- ・夏に小学校の教員が保育参観に行った。

【保土ヶ谷小学校】

- ・今年度は、1, 2年生と園児の交流と、5年生と園児が交流する計画を立て活動を行った。
- ・1, 2年生との交流では学校探検スタンプラリーと体育館でのレクリエーションをした。
- ・5年生は、来年度のペア学年になる園児たちとの関わりを意識して本の読み聞かせや教室遊びを行った。



成果と課題

【成果】

- ・小学生は、交流会を通して年下の子に対して優しい気持ちをもって接することができた。「自分たちの学校に入学してほしいな」「いいお兄ちゃん、お姉ちゃんと思ってもらいたいな」など園児への相手意識をもって取り組むことができた。
- ・園児は学校に行くことだけで大きなチャレンジで不安な気持ちになってしまう子もいるが、交流したことで安心して学校に行けそうだという気持ちをもっていた。また、優しくしてくれた小学生の姿を話す様子も見られ、あこがれをもつ園児もいた。
- ・小学生とやった遊びを園児たちが園でも取り入れてくれていた。

【課題】

- ・交流で行う遊びのルールが難しかったため、ゲームのルールを守ることに精一杯で子どもたち同士の交流につなげることができなかった。
- 活動を練るときに目的を一つだけに絞って、園児と小学生がコミュニケーションをとれるようにする。
- ・学校探検では、言葉で教室の説明をするのではなく、写真や絵を使って表す方が園児にとって分かりやすかった。
- ・写真の扱いについてあらかじめ撮影するときの約束と使用する用途を決めておく良かった。
- 4月の全体会のときに決めておくようにする。
- ・1回だけの活動ではなく、継続して活動ができると良かった。
- ・交流する園の数が多く、1回だけになってしまうので、それぞれの園と深く関わりたかった。

令和7年度 保土ケ谷区 Bブロック活動報告書

帷子小学校

スカイハイツ幼稚園
天王町保育園 星川もえぎ保育園
岩間保育園 にじいろ保育園天王町

峯小学校

峯岡幼稚園 保土ケ谷保育園
りとるルーナ GENKIDS星川保育園
ラフ・クルー星川保育園



遊びを通じた出会い



協力して育てる栽培活動

小学校に
行きたいな

早く
会いたいな



生活科などの学習を通じた交流



小学校って
楽しいな



高学年児童による小学校体験



今年度の○成果と△課題

○入学への期待感、安心感の高まり

「小学校＝勉強」というイメージが変化。心の距離の縮まり。協力して行った栽培活動から、「お花を見に行きたい」「小学校へ行きたい」と、小学校を身近に感じられるように。

○園児・児童の自己肯定感の向上

交流で褒められたことが自信につながり、園児が児童を真似る姿や年中児・年少児に教えてあげる姿が見られるように。小学生になることへの憧れ。

1年生も、お兄さん・お姉さんとしての頑張りが自信に。「年長さんのために」と、いつも以上に頑張る1年生。ペア活動を早くから行い、相手意識が高まる活動に。「〇〇さんに会いたい」「〇〇さんのために」「早く小学校で一緒に遊びたい」

△日程調整の難しさ、関係の深まり

複数の園との調整、小学校側の学習が進んでから活動が決まったりする（生活科の学習）ことなど、日程調整の難しさ。夏の暑さ、冬の感染症等による影響も。また、多くの園との関わりが増えたことはよかった反面、決まった子と続けて交流することができず、深まりが浅くなった側面も。

Cブロック活動報告

藤塚小学校・今井小学校・

立正桜ヶ丘幼稚園・新桜ヶ丘保育園・桜ヶ丘保育園・プチアンジュ保育園



保育園の園児との交流を通して、相手意識をもって活動計画をたて、取り組むことができました。
また、園児が楽しめるような遊びを秋のものを使って作ろうと工夫することができました。

小学生が幼稚園に

◇生活科の学習、町探検で幼稚園を訪問

2年生が生活科の学習で幼稚園に訪問して教室の見学。園児と遊んだり質問したりするなどして交流を深める。

園児が小学校に

◇小学校の1, 2年生の運動会練習を見学

招待状を渡したり、応援メッセージをもらったりして交流を深める。

◇秋のわくわくまつりに招待して学校探検

生活科の秋のおもちゃづくりをして園児を招待して遊ぶ。学校探検やみんなであそんで交流

◇給食交流を中心にその後学校で交流

給食を食べたい、小学生と遊びたい など、園児の思いも大切にして交流計画をたてて実行

成果

- ・1年生が幼稚園児や保育園児との関わりを通して**相手を思いやる優しさ**や**相手に合わせる体験**ができたこと。

入学を控えている園児の中には、不安に思う園児もいるため、交流を通して学校を知ったりかかわったりすることで**安心感**につながったこと。

- ・卒園児のその後の様子を知ることができる。

課題

- ・毎年担当者が変わるため、どのように交流していくのかがわからないところがあったので、**各学校で引継ぎ**をしていく。
- ・**負担**にならないように取り組んでいく。→小学校では生活科の授業の一環で行うため負担ではない。

幼保小教育交流事業 Dブロック活動報告

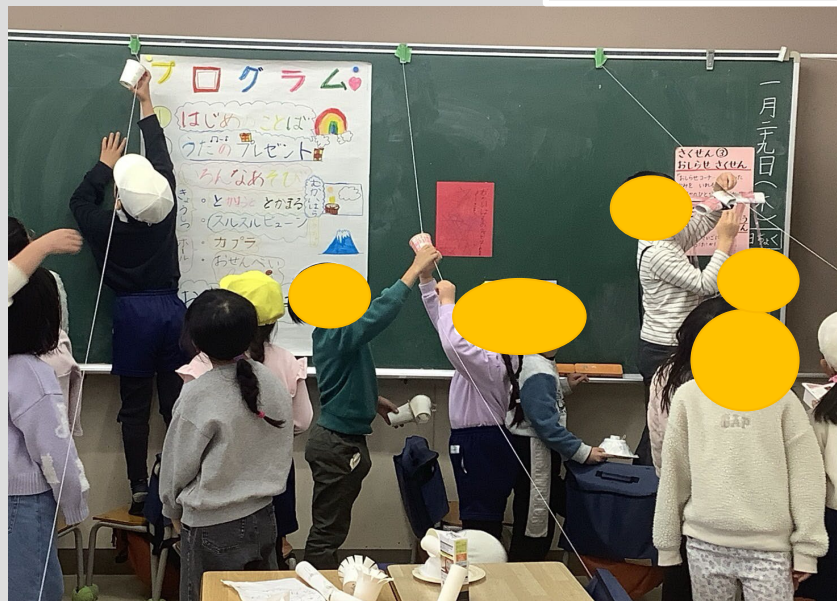
青葉幼稚園、向原幼稚園、岩崎学園附属幼稚園
星川小学校、仏向小学校、坂本小学校
まなびの森星川こども園、認定こども園星川ルーナ、三丁目こども園、にじいろ保育園和田町、アスク和田町保育園、ポポラー横浜和田町園、エルアンジュ保育園、スターチャイルド和田町ナーサリー

・星川小学校



- 保育士による読み聞かせ
- 授業交流各園1回ずつ
算数、国語、図工
- 3園を招いて交流予定
5年→一緒に遊ぶ
1年→校舎案内、1年生体験

▶ 仏向小学校



- 双方向による継続した交流
園庭遊び、球根植え
運動会の応援メッセージ
教科を生かした交流
(生活 図工 音楽)
- 教職員の交流
→園からの自由参観
→連携研修の実施

▶ 坂本小学校

小学校と園で話し合い、
今年度の交流では写真は撮ら
ないことに決めたため、
写真はありません。

- 図工の授業を一緒に行う
学校探検
球根を一緒に植える
- 5年生と交流予定

幼保小教育交流事業 Dブロック活動報告

●成果

- ブロック活動費で球根購入したことはよかった。活動を通して、入学への意欲が増した。
- 校内探検などを行うことで、入学への見通しがもて、小学生との交流も深まった。
- 図工など活動的のある交流は有効的だった。1年生は相手意識をもてた。園児は楽しみながら活動できて、小学校へのハードルを下げることができた。
- 保育参観から子どもたちが遊びを通して、技能を高めたり、季節を感じたりしている姿、仲間づくりをしている姿が見られた。
- 小学校と園で情報交換を設けて、目指す子どもの姿の共有や来年度の交流の計画を行い、小学校と園の連携を深めることができた。

◆課題

- 保育参観の参加率がよくなかった。
→周知がされていたり、されていなかったりでメール等で事前に連絡手段を確立しておく。
- 年間を通して関わりをもつのが難しい。
→年度初めの年間予定の作成
- 感染症や夏場の暑さなどによる交流の延期や中止
- スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの充実
→内容を園と小学校一緒に考える機会があってもよいのではないか。

皆で楽しめるように、ぼくもとるけど、年長さんにとらせてあげたい。

やさしくこすると、きれいに模様が出るよ。



かるた

図工



保育参観 実際に見ることで、多くの学びがありました。情報交換もできました。

Eブロック活動報告

上星川小学校 常盤台小学校
上星川幼稚園 育和幼稚園
にじいろ保育園 上星川
ひかりの風保育園 和田愛児園
認定こども園 森のルーナ

- 7月 和田愛児園保育見学
- 秋から冬 幼稚園・保育園と小学校との児童交流会
- 1年生図工「うつしたかたちから」の授業交流
- 幼稚園にて歌発表・かるた遊びで交流
- 1年生生活科「あきあそび」で交流
- 2年生生活科「おもちゃランド」で交流
- 5年生と「学校探検」で交流 など

成果と課題

<<成果>>

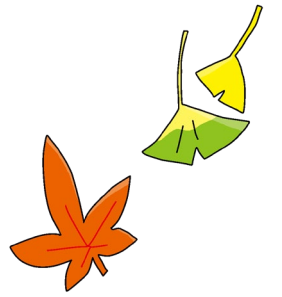
- ・ 保育参観は事前の準備や声の掛け方など、子どもが迷わず、取り組みやすい工夫がされていて参考になった。
- ・ 入学前にどんな生活、指導をしているかを知ることで入学後の指導へのヒントを得ることができた。
- ・ 交流は緊張していたが、行ったことで安心ができて、「次は園に来てほしい」という声があがった。
- ・ 学校に対してのイメージが、「楽しみ」に変わった。
- ・ グルーガンを使う様子を見て「僕たちも使ってみたい。」との声が出て、実際に園の制作で使ってみる事で活動が広がった。
- ・ 学校が身近に感じられて、「勉強をしてみたい。」「〇〇室に行ってみたい。」と言うようになった。
- ・ 1年生も、自分たちで案内したり説明したりする経験がとてもよかった。
- ・ 1年生はいつもお世話をしてもらった立場だったが、一生懸命お世話をし、普段静かな子もよく話しかける様子が見られた。「手が小さくてかわいかった。」との感想。

<<課題>>

- ・ 秋、早い時期に感染症が流行ってしまい、予定していた交流ができなかった。
- ・ 人数が多く、場所や時間の確保が難しかった。
- ・ 行事などを考慮し、早目に日程などを調整する必要がある。



Fブロック活動報告



新井小学校

11月：1年生と交流

小学校体験・秋のあそび・一緒に遊ぶ

千丸台保育園

上菅田笹の丘小学校

11月：5年生と交流

縁日
ソーラン節を一緒に踊る

2月：1年生と交流

小学校体験

梅の木保育園・笹山保育園・えぶち保育園
えぶちにしや園

川島小学校

11月：1年生と交流

秋あそびの会

12月：音楽会練習

リハーサルの見学

2月：1年生と交流

1年生体験

3月：1年生と交流

絵本の読み聞かせ(予定)

向台保育園・ココアンジュ保育園・西谷保育園
えぶち保育園・えぶちにしや園

☆打合せ☆

- ・年間計画
- ・交流内容の検討
- ・交流回数検討

☆次年度に向けて☆

- ・今年度の振り返り
- ・来年度に向けて

4月

3月

成果と課題

成果

(小学校)

○小学校ではお世話されていた1年生だが、幼保小の交流を通して、年下の子への関わり方を学んだり、相手意識をしっかりとって準備を進めたりすることができた。

(保育園)

○園児が小学校生活を体験することができ、これからの小学校生活を意識できた。

○毎月のお便りを園児たちと小学校に届けることで、行事の練習をしていたり休み時間に遊んでいたりと、園児たちが小学校の様子を見ることができ、とてもよい刺激になった。これからも続けていきたい。

○音楽会のリハーサルを見せてもらったが、園児たちにとって1番身近でとても素敵な芸術鑑賞会になった。

課題

(小学校)

○上級生や教師がつい手伝ったりお世話したりしてしまった。



入学前の子どもの姿を小学校の教員も把握し、少しでも同じような環境をつくっていけるようにしたい。

○小学校側の時間帯に合わせて交流会を設定したが、保育園によっては昼食の時間が普段より遅くなってしまった。



最初の時点で、時間や活動内容を保育園側としっかり確認してから進めていきたい。

(保育園)

・今回は小学校にお任せしてばかりだったため、保育園側からも何かできたらよいと思った。

67.ブロックの取り組み

交流内容（時期）

- （4月）★保育園・幼稚園の先生による
手遊び、絵本・パネルシアターの
読み聞かせ
- （6月）★折り紙、タブレットを使っでの交流
★権太寄席 合同鑑賞
- （7月）★5年生によるドッジボール教室
- （8月）★保育士体験（職員）
- （10月）★遊戯の観覧 ★園庭探検
★3年生とボッチャで交流（3回）
- （11月）★2年生とおもちゃランドで交流
★1年生の秋まつりに招待
- （12月）★1年生のどんぐりおもちゃランド交流
★1年生と園児でドッジボール大会
- （1月）★5年生との交流
- （2月）★出身園の先生に手紙で
知らせよう
★パターンブロックで遊ぶ



☆若葉保育園
☆境木保育園
☆もも園
☆おたけいりこども園

☆権太坂小学校
☆境木小学校
☆初音が丘小学校
☆境木幼稚園
☆初音幼稚園

成果と課題

《成果》

- 入学当初に園の先生と触れ合えたことで、子どもたちが安心する様子が見られた。
- 小学生は、園児が楽しめるようにと、活動の進め方を工夫するなど、相手意識をもって活動することができた。また、園児側も、目標を持ち、努力する経験ができた。
- 年間を通して交流活動をすることができた。
- 1年生だけでなく、他学年と園児との交流もできたのがよかった。
- 活動費で購入した本の回し読みは、受け渡しも工夫することで交流の機会になった。また、「だいじだいじどーこだ？」の絵本の内容が年長児の発達段階に合っていた。
- 園児が小学校を訪問することで、不安な気持ちが安心に代わっていき、小学校について園児同士で話す機会が増えた。

《課題》

- 園と児童で人数比に偏りがあり、活動内容や進め方（他園との合同など）を工夫するとよいのかもしれない。
- 冬の時期の交流は感染症の流行などと重なることも考え日程調整をする必要がある。また、予備日を設定しておいたほうがよい。
- いろいろな学年とまんべんなく交流できたのはよかったが、それゆえに交流が断続的になりがちだった。
- グループを固定して交流を行うと、児童と園児が名前を覚えたり、深く関わりをもったりして交流することもできるのではないか。
- 交流するにあたって、事前の打ち合わせをもう少し密にし、例えば園の職員がどのようにかかわるとよいかまで連絡を取り合っていきたいと思った。
- ブロック内でテーマを決め、研修ができるような機会を持ちたい。

令和7年度幼保小教育交流事業報告書

Hブロック

瀬戸ヶ谷小学校
仲よし幼稚園

岩崎小学校
霞台保育園
ダイアナ保育園



【活動内容】

園児・児童の交流

★園児を小学校に招き、交流を行った。

職員の交流

★霞台保育園での保育参観・体験を行った。

成果 と 課題

成果

瀬戸ヶ谷小学校

- ・年間5回の交流を行うことで、園児と児童の仲が深まった。
- ・交流が深まるにつれて、互い相手意識や活動の目的を高めることができた。
- ・職員同士の交流も行い、全職員が幼保小の連携を意識できた。

岩崎小学校

- ・年度末の交流を行うことで、互いに進級・進学への思いを高めることができた。
- ・児童は年長児と関わることで先輩としての思いを高め、年長児は入学後の生活への見通しをもち、交流の価値づけができた。
- ・園児との交流内容について考える活動で、「小学校の一日を紹介したい」という思いが高まり、動画を作成した。その動画は入学説明会で、保護者に見せる資料になった。

課題

幼保小教育交流事業を、どのように幼稚園・保育園・小学校のカリキュラムに取り入れるかを、保土ヶ谷区全体で検討をしていく。

- ・小学校は、1年担任が担当をしている場合が多く、継続的な交流内容を検討・継続していくことが難しい。小中連携のように、ブロックで校長・園長・各担当者が集まり継続的な交流計画を立てられていない。

ブロック編成の難しさ

- ・ブロック外の交流が教育カリキュラムに根付いている小学校や園は、さらにブロックでの交流が増えると負担になってしまう。各小学校・園でのカリキュラムをしっかりと立てた児童園児の成長に効果的な、交流が必要。